

■株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会 毎年6月開催
単元株式数 100株
基準日 定時株主総会 毎年3月31日
 期末配当 毎年3月31日
 中間配当 毎年9月30日（中間配当を実施する場合）

株主名簿管理人 大阪市中央区北浜四丁目5番33号
住友信託銀行株式会社

同事務取扱場所 東京都千代田区丸の内一丁目4番4号
住友信託銀行株式会社 証券代行部

（郵便物送付先） 〒183-8701
東京都府中市日鋼町1番10

住友信託銀行株式会社 証券代行部

（電話照会先）（住所変更等用紙のご請求） ☎0120-175-417
（その他のご照会） ☎0120-176-417

（インターネットホームページURL） <http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/retail/service/daiko/index.html>

同取次所 住友信託銀行株式会社 本店及び全国各支店

公告方法 電子公告により、当社のホームページに掲載します。
URL <http://www.mars-eng.co.jp/kessan/index.html>

ただし、やむを得ない事由により電子公告をすることができないときは、
日本経済新聞に掲載します。

上場取引所 東京証券取引所

[マースジャーナル]

第34期 中間報告書

平成19年4月1日から平成19年9月30日まで



MARS Journal

当社ホームページのご案内



当社では、新製品の最新情報をはじめ、当社の製品や各種サービス及びニュースリリースなど、当社に関する情報をホームページにて開示しています。

また、「投資家の皆様へ」のページにおいては、決算短信などの財務情報のほか、各種IR資料、株式情報、株主優待のご案内なども掲載しています。

どうぞお気軽にアクセスしてみてください。

URL：<http://www.mars-eng.co.jp>



株式会社 マースエンジニアリング
〒160-8420 東京都新宿区新宿1-10-7
TEL. 03-3352-8555 (代)
URL：<http://www.mars-eng.co.jp>



株式会社 マースエンジニアリング

パーソナルPCシステムの早期、 業界標準化を押し進めてまいります。

株主の皆様には、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。当社の事業活動につきましては平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

当中間期におけるパチンコ業界は、平成19年6月から9月にかけて、旧基準のパチスロ機が撤去され、それに代わる遊技機への設備投資が積極的に行われたため、周辺機器に対する設備投資は先送り傾向にありました。また、遊技人口が減少し、収益性の低下が進む中、大手パチンコホールが倒産したことを機に、金融機関が慎重になり、融資が受けられないケースが増加したことや、人材難が深刻化したことを受けて、パチンコホールの経営環境は一層厳しいものとなりました。

この厳しい状況の下、パーソナルPCシステムは、深刻化する人材難を解消し、少数精鋭でホール運営が可能な唯一のシステムとして評価を得て、大手パチンコホールを中心に導入いただいたことから、ニーズに適したシステムであると確信しているところです。下半期におきましても早期に導入実績を積み上げ、パーソナルPCシステムが業界標準となるべく、販売を展開してまいります。

また、当社グループは、パチンコ業界で培ってきた技術や実績、ノウハウを基に、ICカードやICタグといった次世代を担うRFID事業を、当社グループの新たな柱として位置付け、異業種への参入に向けて挑戦し続けております。

その具体的な経営戦略として、7月に業務用印刷機大手の昭和情報機器㈱と業務・資本提携をいたしました。両社間での共同開発や互いが得意とする販売チャネルを活かした販売に取り組み、相乗効果を図ってまいります。

株主の皆様には、今後とも格段のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



代表取締役社長 松波 明宏

当中間連結会計期間の業績

当中間期の連結業績は、売上高125億64百万円(前年同期比2.7%減)、営業利益25億77百万円(同1.8%増)、経常利益26億27百万円(同2.0%増)、中間純利益14億33百万円(同6.9%増)となりました。

事業別の状況は次のとおりであります。当社グループは、開発・製造・販売・アフターサービスに至るまで一貫体制で業務の最適化を図り、原価低減を押し進めるとともに、開発型企業グループとして、お客様の声を広く採り入れた製品づくりに努めてまいりました。また、全国主要都市に配置しているサービスステーションの他、サポートセンターを設置し、お客様に安心していただくためのサポート体制の充実を図っております。

プリペイドカードシステムであるサイクルカードシステムは、1枚の会員カードにプリペイド機能を付加し、パチンコホールの経営戦略をサポートする「カードシステム」とランニングコストの低減を重視したシンプルな「コインシステム」の2種類を取り揃え、顧客ニーズに合わせて両システムの提案を行ってまいりました。

最新のプリペイドカードシステムと台ごとに計数機を備え付けた「パーソナルPCシステム」は、パチンコホールに「業務改善」、「環境改善」、「経費削減」を提供する当社グループ独自のシステムであり、業界標準化を目指して販売してまいりました。人材難が深刻化しているパチンコ業界において、少人数で効率よくパチンコホールを運営できる同システムは、全国の大手有力パチンコホールを中心に導入が進み、計画を上回る販売実績を上げることができました。

この結果、当中間期におけるパーソナルPCシステムを含むサイクルカードシステムの売上件数は87店舗、導入(実稼働)店舗数は平成19年9月末時点で累計1,785店舗(市場シェア16.9%)となり、当システムの個別売上高は46億75百万円となりました。

「景品管理のマース」として高いブランド力とシェアを誇る景品管理システムは、液晶パネルで操作性やセキュリティ強化を図った上位モデルの「mシリーズ」と標準モデルの「eシリーズ」の2タイプを販売し、シェアの拡大を図りました。

また、今年7月に発売開始した卓上型景品払出収納庫「m9500」は、場所を選ばない卓上型ながら、大容量の景品カートリッジを収納できるコンパ

クト設計で、デザインもフルモデルチェンジし、新たに「mシリーズ」としてラインナップされました。

この結果、当システムの個別売上高は16億59百万円となりました。RFID(無線ICタグ)部門では、主にセキュリティを強化した入退出管理システムやゲームセンター向けの認証システムを提供するとともに、健診センター向けシステム及びスマートフォン対応リーダーライタ等の新製品を開発し、展示会に積極的に出展して拡販に努めました。

この結果、RFIDの個別売上高は4億28百万円となりました。以上の結果、アミューズメント関連事業部門の売上高は122億67百万円(同2.8%減)となりました。

その他事業部門におきましては、ホテル事業を行っており、売上高は2億97百万円(同3.2%増)となりました。

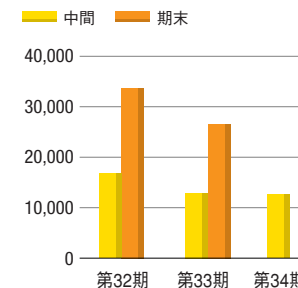
通期の見通し

当社グループの主要な販売先となるパチンコ業界は、旧基準のパチスロ機の撤去が平成19年9月末をもって完了いたしました。撤去に伴う遊技機入替のために過大な設備投資が行われた上、4月に大手パチンコホールが倒産したことを受けて、金融機関からの融資が受け難い状況になっていることから、周辺機器への設備投資が急回復することは困難であると予想されます。また、従業員の確保が難しくなり、求人広告費や人件費の増加がパチンコホールの経営を圧迫してきております。

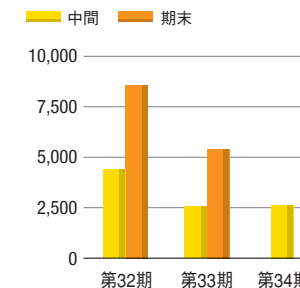
このような状況下において、ホール業務改善、ホール環境改善、経費削減を実現するパーソナルPCシステムは、少人数での運営を可能にし、深刻化する従業員の採用問題を解決できるシステムとして、市場から評価され、大手有力パチンコホールを中心として順調に導入が進んでおり、パーソナルPCシステムを軸にトータルシステムでの販売を押し進めてまいります。

また、プリペイドカードシステムをはじめ、複数の新製品をリリースする予定であり、競合他社との差別化を図りながら、販売を展開してまいります。なお、当期の連結会計年度の業績見通しは、売上高270億円(前年同期比1.6%増)、営業利益55億90百万円(同5.4%増)、経常利益56億30百万円(同4.0%増)、当期純利益31億68百万円(同6.3%増)を見込んでおります。

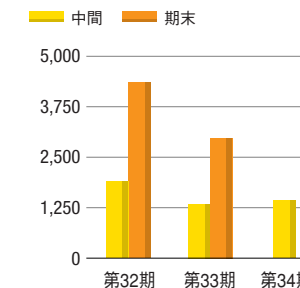
売上高(百万円)



経常利益(百万円)



中間(当期)純利益(百万円)



● Mission of
MARS [パーソナルPCシステム]



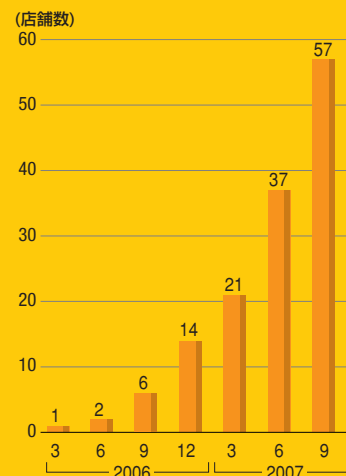
パーソナルPCシステムが照らし出す パチンコ業界の未来

遊技人口の減少や集客率の低下など、経営環境が厳しさを増すパチンコ業界において、プリペイドカードと台ごとに搭載された計数機によって入金から遊技、玉数計算までの全てを座ったまま行える「パーソナルPCシステム」が好調な売れ行きを続けています。

好調の理由は、現在パチンコホールが直面するさまざまな経営課題に対して、当システムが「業務改善」「環境改善」「経費削減」という3つの点からの確かなソリューションをお客様に提供しているために他なりません。お客様にとっては手を汚さず遊技に専念でき、従業員にとってはホール業務の重労働であった玉運びから解放され、またホール経営者にとっては他店との差別化が可能になる上に人件費の抑制もできるという当システムの優秀性が、全国の有力ホールから高い評価を得ています。

パーソナルPCシステムを、パチンコ業界の未来を切り開く新しいスタンダードとして認知されるまで、マースエンジニアリングは全国規模での普及に邁進してまいります。

パーソナルPCシステムの 売上店舗数



m9500

NEW 新型の払出機が登場しました。

マースエンジニアリングでは、今年7月にフルモデルチェンジした新型の卓上型景品払出収納庫「m9500」を販売開始いたしました。場所を選ばないコンパクトな卓上タイプながら、景品カートリッジの収納枚数は1,200枚の大容量となっています。

景品の種別をレーン単位で自動認識するカートリッジ方式を採用。営業時間中でも、容易にレーン構成の変更ができるので、ホール業務の作業効率が飛躍的に改善します。

👉 MARS Action! [導入事例]

パーソナルPCシステムが全国各地に続々と導入されています。



[東京都中央区]
ピーアーク銀座様

東京の中心的な繁華街、銀座に位置する「ピーアーク銀座」様。「遊び方が分からない」「タバコの煙が気になる」「音がうるさい」といったお客様を招き入れるために「アンチパチンコ宣言」を掲げ、1円パチンコ「イチパチ」コーナーの導入やフロアの全面禁煙を実施。パーソナルPCシステムは、新しい試みで多くのお客様に愛される同店の遊技環境の改善に力を発揮しています。

ピーアーク銀座様のコメント

パーソナルPCシステムを採用したことで、スタッフが玉運びから解放され、「心地よく、楽しんで遊んでもらうためのお手伝い」に、より注力できるようになりました。また、足元に玉箱を積まない広々とした遊技環境の他、音量の問題解決にも期待しています。



[東京都新宿区]
マルハン新宿店様

業界最大手の株式会社マルハン様、新宿店におきまして、初の大幅なリニューアルに併せてパーソナルPCシステムを導入していただきました。地下1階から3階までの4フロアのうち3階部分を禁煙としたり、従業員の制服をキャビンアテンダント風にアレンジするなど、快適なホール環境を目指した中での当社システム導入の運びとなりました。

マルハン新宿店様のコメント

第一に、システム導入によって大幅な人件費の節減につながり、その分をサービス体制の充実に努めています。また、玉箱積みなどがなくなりましたので大いに助かっています。お客様からも、閉店間際に交換所に行列を作ることもないと好評です。

Topics

1

新製品発表内覧会を開催しました。

今年7月に本社ショールームをメイン会場に新製品発表内覧会・セミナーを開催し、日本全国よりホール経営者様を中心とした多くの方にご来場いただきました。

今回は新製品の、タッチパネル式の液晶を搭載した「テレビ付ユニット」やフルモデルチェンジした「卓上型景品払出収納庫」の他、参考出品として業界初の「搬送システム」など、マースの最新鋭のトータルシステムを「見て」、「実感」していただき、その後本社近くのパーソナルPCシステムの導入店様にご案内して実際に「体感」していただきました。

当社の確かな技術に裏打ちされた斬新なシステムが改めて注目され、大盛況の内覧会となりました。



Topics

2

AED(自動体外式除細動器)を設置し、
全社員の1/3が認定証を取得しました。

2004年7月より、心臓の痙攣による突然の心停止の傷病者を救命するために、一般市民でもAED(自動体外式除細動器)を使用できるようになりました。

これに伴い、当社グループでは、企業市民として緊急時の人命救助ができるように社員がAEDの使用方法や心肺蘇生法等の講習を受講することを奨励しています。今年10月末現在で、全社員の約1/3に当たる182名が受講し、認定証を取得いたしました。

また、当社グループの全国主要拠点にAEDを設置し、社員及び地域の住民の方々が使用できるように開放しています。



Consolidated Financial Statements [中間連結財務諸表]

中間連結貸借対照表(要旨)

(単位:千円)

科目	当中間連結 会計期間末 平成19年 9月30日現在	前中間連結 会計期間末 平成18年 9月30日現在	前連結 会計年度末 平成19年 3月31日現在
資産の部			
流動資産	28,762,659	32,204,710	30,241,245
固定資産	15,606,110	13,552,694	13,833,921
有形固定資産	9,891,958	9,633,920	9,870,875
無形固定資産	122,974	152,379	139,155
投資その他の資産	5,591,176	3,766,394	3,823,890
資産合計	44,368,769	45,757,405	44,075,166
負債の部			
流動負債	7,916,157	8,671,220	8,427,178
固定負債	2,640,839	2,723,520	2,721,414
負債合計	10,556,997	11,394,741	11,148,593
純資産の部			
株主資本	33,552,130	33,508,692	32,528,095
評価・換算差額等	△13,011	246,772	98,699
少数株主持分	272,653	607,199	299,778
純資産合計	33,811,772	34,362,663	32,926,573
負債、純資産合計	44,368,769	45,757,405	44,075,166

中間連結損益計算書(要旨)

(単位:千円)

科目	当中間連結 会計期間 (平成19年4月1日から 平成19年9月30日まで)	前中間連結 会計期間 (平成18年4月1日から 平成18年9月30日まで)	前連結 会計年度 (平成18年4月1日から 平成19年3月31日まで)
売上高	12,564,251	12,910,863	26,564,327
売上原価	6,510,007	7,017,182	14,573,727
売上総利益	6,054,244	5,893,680	11,990,600
販売費及び一般管理費	3,477,231	3,362,044	6,685,065
営業利益	2,577,013	2,531,636	5,305,535
営業外収益	52,951	44,633	114,832
営業外費用	2,200	1,045	8,643
経常利益	2,627,765	2,575,224	5,411,724
特別損失	104,459	117,366	129,615
税金等調整前中間(当期)純利益	2,523,305	2,457,858	5,282,109
法人税、住民税及び事業税	1,071,337	1,056,633	2,212,924
法人税等調整額	47,134	△31,781	△13,494
少数株主利益	△28,395	92,151	102,402
中間(当期)純利益	1,433,228	1,340,854	2,980,277

中間連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:千円)

科目	当中間連結 会計期間 (平成19年4月1日から 平成19年9月30日まで)	前中間連結 会計期間 (平成18年4月1日から 平成18年9月30日まで)	前連結 会計年度 (平成18年4月1日から 平成19年3月31日まで)
I 営業活動によるキャッシュ・フロー	2,801,090	1,589,331	3,173,551
II 投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,609,167	△1,480,851	△3,307,277
III 財務活動によるキャッシュ・フロー	△509,895	△555,053	△3,271,910
IV 現金及び現金同等物の増減額(減少:△)	△317,972	△446,573	△3,405,637
V 現金及び現金同等物の期首残高	11,674,303	15,079,940	15,079,940
VI 現金及び現金同等物の中間期末(期末)残高	11,356,330	14,633,367	11,674,303

中間連結株主資本等変動計算書(要旨) 当中間連結会計期間(平成19年4月1日から平成19年9月30日まで) (単位:千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
平成19年3月31日 残高	7,934,100	8,371,830	22,653,593	△6,431,428	32,528,095
中間連結会計期間中の変動額					
剰余金の配当			△408,932		△408,932
中間純利益			1,433,228		1,433,228
自己株式の取得				△260	△260
株主資本以外の項目の中間連結会計期間中の変動額(純額)					
中間連結会計期間中の変動額合計	—	—	1,024,295	△260	1,024,035
平成19年9月30日 残高	7,934,100	8,371,830	23,677,889	△6,431,688	33,552,130

	評価・換算差額等		少数株主持分	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計		
平成19年3月31日 残高	98,699	98,699	299,778	32,926,573
中間連結会計期間中の変動額				
剰余金の配当				△408,932
中間純利益				1,433,228
自己株式の取得				△260
株主資本以外の項目の中間連結会計期間中の変動額(純額)	△111,710	△111,710	△27,125	△138,836
中間連結会計期間中の変動額合計	△111,710	△111,710	△27,125	885,199
平成19年9月30日 残高	△13,011	△13,011	272,653	33,811,772

Non-consolidated Financial Statements [中間単体財務諸表]

中間単体貸借対照表(要旨) (単位:千円)

科目	当中間期 平成19年 9月30日現在	前中間期 平成18年 9月30日現在	前事業年度末 平成19年 3月31日現在
資産の部			
流動資産	17,715,327	21,162,992	18,340,349
固定資産	15,079,845	12,972,080	13,476,122
有形固定資産	4,373,760	4,561,931	4,462,150
無形固定資産	119,689	173,787	147,303
投資その他の資産	10,586,395	8,236,361	8,866,668
資産合計	32,795,173	34,135,072	31,816,472
負債の部			
流動負債	3,252,446	3,701,945	3,355,534
固定負債	755,503	723,971	726,111
負債合計	4,007,949	4,425,916	4,081,645
純資産の部			
株主資本	28,794,339	29,451,895	27,599,167
評価・換算差額等	△7,116	257,260	135,659
純資産合計	28,787,223	29,709,156	27,734,826
負債、純資産合計	32,795,173	34,135,072	31,816,472

中間単体損益計算書(要旨) (単位:千円)

科目	当中間期 (平成19年4月1日から 平成19年9月30日まで)	前中間期 (平成18年4月1日から 平成18年9月30日まで)	前事業年度 (平成18年4月1日から 平成19年3月31日まで)
売上高	9,091,719	9,259,701	19,416,006
売上原価	4,972,185	5,178,500	11,002,426
売上総利益	4,119,534	4,081,201	8,413,580
販売費及び一般管理費	3,114,669	3,085,847	6,098,511
営業利益	1,004,865	995,354	2,315,069
営業外収益	1,050,051	230,824	277,756
営業外費用	790	—	4,271
経常利益	2,054,127	1,226,178	2,588,554
特別利益	9,206	19,892	—
特別損失	2,419	117,366	129,340
税引前中間(当期)純利益	2,060,913	1,128,704	2,459,213
法人税、住民税及び事業税	470,753	444,779	1,002,889
法人税等調整額	△14,205	△35,832	△30,726
中間(当期)純利益	1,604,365	719,757	1,487,050

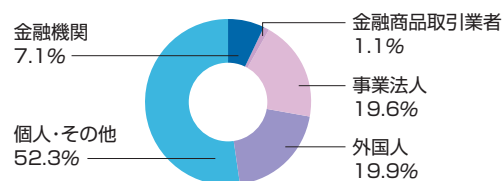
株式の状況

発行可能株式総数	6,762万株
発行済株式の総数	2,272万株
株主数	5,881名

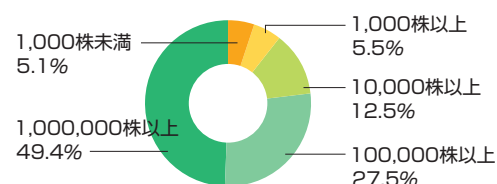
大株主

株主名	持株数(千株)	議決権比率(%)
(株)イー・エムプランニング	4,251	20.79
松波廣和	1,404	6.87
ステートストリートバンクアンド トラストカンパニー	1,262	6.18
松波香代子	1,028	5.03
松波明宏	1,000	4.89
ザチェースマンハッタンバンク エヌエイロンドン	816	3.99
みずほ信託退職給付信託東京都市銀行口 再信託受託者資産管理サービス信託	600	2.93
古宮重雄	490	2.40
五味輝雄	450	2.20
永井美香	432	2.11

所有者別分布状況



所有株数別分布状況



会社概要

商号	株式会社マースエンジニアリング (Mars Engineering Corporation)
本社所在地	東京都新宿区新宿一丁目10番7号
設立年月日	昭和49年9月13日
会社の目的	1. 各種電子機器の設計・試作並びに製造販売 2. ソフトウェアの開発 3. 電子機器の開発、企画並びに販売 4. ホテルの経営 5. 不動産の賃貸業 6. 建築工事の企画、設計並びにコンサルティング業務 7. 損害保険代理店業 8. 前各号に付帯する一切の業務
資本金	7,934,100,000円
就業者数	498名(男454名、女44名)

役員

代表取締役	松波 廣 和
代表取締役会長	古 宮 重 雄
代表取締役社長	松 波 明 宏
取締役副社長	五 味 輝 雄
取締役	大 矢 俊 寿
取締役	村 上 浩 浩
常勤監査役	後 藤 利 行
監査役	竹 俣 耕 一
監査役	小 林 郁 夫

執行役員

営業本部長兼西日本営業部長	秋 山 裕 和
ラインテック営業部長	杉 内 雄 二
R&Dセンター長	佐 野 邦 明
技術開発部長	井 出 平 三 郎
製造部長	渡 邊 廣 美
管理本部長兼経理部長	佐 藤 敏 昭

運命の出会いはいかに

「パチンコ景品管理」のマース、
ついに誕生！



POS景品管理システム「大入」

自社製品開発に自信を深めたマースは、昭和55年の5月に1軒の設計事務所へオフコン販売の飛び込み営業を行います。ここで、「オフコンは買えないが、こんな機械をつくれるか？」と紹介されたのが、パチンコ店の景品管理システムでした。

当時、ホールの遊技客はパチンコ玉をわざわざ景品カウンターまで持っていき、玉計数機で確認して景品に換えていました。そこでマースでは、まずパチンコ島の端に「景品管理システム」を設置することを提案し、このシステムに遊技客が取得した玉を入れると玉数が紙テープで出力されるよう、当社のPOSシステムを活かして処理できるようにしました。この景品管理システムは名付けて「大入」。玉数が表示されるスタイルも、当時としては画期的なものでした。

評判は高かったものの、なかなか導入が進まない中、当社はその後も改良を続け、ようやくPOSに対して業界で認知されるようになったのは、業界誌各社に取り上げられてから3年後のことでした。ホールの新規開店に併せて続々と商談が舞い込み、新入社員も5名採用して、この頃からオフコン販売と景品管理システムの売上構成比が逆転するようになりました。

ところが、パチンコ業界へ舵をきったマースに吹く風は、順風満帆とはいきません。技術者が引き抜かれ、同業他社が同様の製品を開発して売り出したのです。当社の製品は特許性が十分あったのですが、当社が申請した特許は、今はなき同業他社からの阻害を受けて特許庁から認められず、苦い経験をしました。

また、パチンコ店相手の仕事を嫌がる社員も少なくなく、社員の一部が退社してしまう事態もありました。

さらに、大阪のあるホールへ導入しようとした際、当社の開発したシステムから出力される紙テープは風俗営業法第23条の金券に該当するため警察が導入の許可をしないという問題が起きました。タイトな資金繰りの中、大阪府警本部に直談判するなど必死の思いで説得し、ようやく許可を取り付けました。

夢中で飛び込んだニッチなパチンコ業界への技術革新は、こうした数々の努力を経て、今日のマースエンジニアリングを支えています。